

ハイライト

インドの金融政策委員会は、金利を金利を6%に変えずに金融政策に中立的な立場を維持し、耐久性の根拠で4%のインフレ率を達成するという目標を再確認しました。当委員会は2017年12月の野菜価格の季節的な上昇を受けてインフレが緩やかになり、市場への新鮮な供給が緩和されたことを示す最近のデータにより、会計19年度の下半期にインフラ予測を4.7%~5%わずかに引き下げました。原油、商品価格、カリブ作物の最低サポート価格の改定案、金融低下は、依然としてインフレの上昇リスクとなっています。経済活動と成長の回復に伴う期待インフレ率の低下は、MPCが引き続き金利を維持することを示しています。(出典: BloombergQuint, RBI)

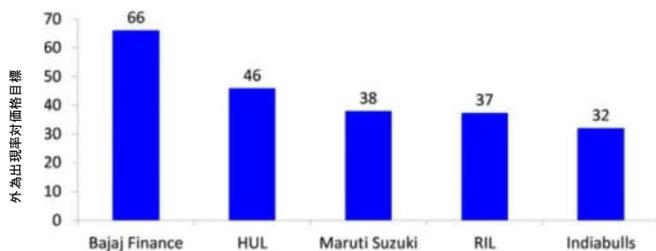


債券の利回りは、インド政府の新会計年度の前半のより低い借入計画についての発表に対して、市場が積極的に反応したため、低下しました。地元の債券市場への圧力を緩和するための入札では、政府は会計19年度に22.5%で発行を削減します。また、短期債券の市場需要に対応するため、会計18~19年度に1~4年間のバケツ発行を導入しました。(出典: BloombergQuint)

インフレの緩和、成長の加速、国内消費に依存する経済は、米国と中国の間の貿易戦争の激化からインドを守るのに役立つかもしれません。RBI(インド準備銀行)は、2011年度に2.3兆ドルの経済が7.4%拡大すると予測しています。これは、Bloombergの調査で2018年に中国より速いとして6.5%成長すると予測されています。(出典: Bloomberg, RBI)

NIFTY 50 の最大の最大の肯定的な驚き

現在の市場価格*と12ヶ月前のアナリスト予想との格差



* 2018年3月28日現在
出典: Bloomberg

Bloomberg | Quint

Bajaj Finance Ltdは管理下の強力な資産に焦点を当てることで、2017年~18年のNiftyベンチマークグループ50社の中で最も高い利益率を達成しました。非銀行の貸し手は、コンセンサス目標価格よりも60%以上の増加となりました。インド最大のFMCG企業 Hindustan Unilever (株)、リライアンス・インダストリーズ社とインド最大の自動車メーカー マルチ・スズキのインド株式会社は、予想を上回ることで分析者を驚かせる他の株でした。市場の焦点は企業が4月に3月の業績を発表し始めると、収益の成長に変更します。前期の間に利益の低下を報告したNifty企業の割合は、4年間で最低でした。(出典: Bloomberg, Motilal Oswal)

貸し手に過去6ヶ月間の発生トレーディング損失を最大1年間に分散する可能にするというRBIの政策決定は、債券市場の持ち直しの理由を与えました。将来の利回りの急上昇を防ぐため、RBIは貸し手に投資変動準備金を設定するよう依頼しました。約106億米ドルのソブリン債務は、4月に満期を迎えると見込まれています。返済の現金は、会計19年度の1か月間で最大額になります。(出典: Bloomberg, RBI)

インドの工業生産は1月に7.5%増加し前年比で6.4%の予想を上回り、製造業の23業種のうち16業種が成長を示しました。製造業の生産は、工業生産の全体的な成長を支える、2018年1月には8.7%に急増しました。資本財の出力が14.6%増ながら、一次製品の生産は、5.8%の増加となりました。輸送機械は33.1%と最も高く、次に家具は27.8%、自動車、トレーラー、セミトレーラーは26.6%となりました。(出典: MOSPI, Bloomberg)

重要な情報

この報告書は、株式単元のオファーを構成するものではなく、勧告または意見書または広告でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、助言を求めるべきであります。

当社がお客様の投資問題を解決するうえでお役に立てる方法について詳しくお知りになりたい場合には UTI 資産担当者にお問い合わせ頂くか、www.utifunds.com をご覧ください。